

再形庵之庫校書 下

中村俊定文庫

文庫 18

1002

3

85

80

75

70

65



芭蕉庵壁土書



一能諧の中品以下也風雅多れの高れ
 甚はくも其の久れ竹枝の毛也
 多し何もあしき合去嫌も其れ
 よく是れ其座にこつ合しむ
 亦もあし唯士農工商四民之もに
 家業にさしはる時をたに乃そ
 倚りあし是れ身成りししとて



其情我々甚しき有り君子無故
其不離傍也此處に因りて
ありて後々此教ありての情我々
乃不事し其後ありて加するも
を白ひて此を又申しつるも
一乞食也其居るを知らぬ
其北其東也又又之をかく
其後ありて其東也其北其東
其外

傳授也其能給師に其も其
其家く其人に其ありて混雜
す
一 訖席也其礼ありて其も其
其上の唯今也其座也其礼に
宗祇法師也二十五其真書に
連歌也席乃其も其も其も
其局に其局あり

其も其も

十六箇所發夕脚

年久友伊賀北端馬さしうし今年の
秋実坂にし落馬せし夏秋旧友にうら

歩以あふの秋実坂秋落馬哉 芭蕉

角北考ふ秋牛もあ馬毛北 土芳

枯枝上鳥乃三階くく秋北首 芭蕉

秋くくけり秋牛北遠里

幻住庵北羽に訪りし

菊種了ん延北端や夕彌涼 曲斐

常外地く雲陽北元 翁

翁北都に飯蔭城訪りし

去馬一しし又せもや夏濃、田植哉 己百

笠改く石坂北さきん 翁

翁にまし先し逢り時

奥店もあくし冬も北本立哉 露川

小本北首北勤く北虫 翁

大津江左氏に招うれし

辛山寄り也 朽の死より腫にし

翁

山の左々々 或致ふ其雨

尚白

蕉翁に別局の時

秋乃若也 先く其答属也

木因

菖に病あり 其枯に病あり

翁

抱月亭にし

市人にとし 是高々人 笠也 空

翁

酒乃戸打く 歎也 枯梅

抱月

物白に先言 母良也 引降也

杜國

園女うへに

志之れらや 死まじ 孫に 袴木笠

之北

翁多兒 蝶也 留れ 其風

翁

文禄五年冬

江加平田明照寺ニテ

尊之れ 涙也 染こし 散取葉

翁

一夜 静ふ 強 笠也 案

李由

春風や麦乃中行 水也喜 木尊

陽火も常む 花也糸口 翁

越屋乙筋七樽取 川邊に暮り馬に

草如戸や日暮し 号もきく也酒 翁

晩春に多水 水桶也月 乙筋

正秀亭

月代や孫に幸也 おく宵也 翁

萩もけり 以り行燈 正秀

茄子画讀

尺やしやる 茄子也 生高軒也 畑 惟葵

其葉也 折らん夕白 翁

許六來りし冬 笠電也 戸打く

室も菊也 隣もあり也 生大根 許六

冬もさし 笠電も 心窓也 燦 翁

月もあはれ 宵も馬也 連し才也 嵐雪

茅屋に翁也 留し

漏らぬ程りしの時雨よ草花庵 蝕嵐

火城おもしろき冬之花 寫 如竹

一ゆくせれ仕事りの夜に踊りし 翁

陸奥千鳥 兼卷の雪丸集七番友成 改免らとと馬多し

陸奥に下らんしし下野國まじ旅立馬に
那須野しつゝ如に翠桃何共衛北あつて
し深丸野成分入をし道毛ゆり斗草深
り化の

浦子起合ふ人取枝折乃夏夜哉 芭蕉

青り兒之夜盆子成るん推紅葉 翠桃

起る雨に市花仮あ奴吹取し 曾良

町中夜長く川音七月 蕉

夜々子夜未だに振あききりん 桃

秋也黒跨水端廻り 詠り 良

拍子の小笠に白紙かき入る 蕉

床より化髪乃はり起る合 廻輪

翔日に火焼燗什多家も

益人三子兒廿六廿七

松の根に笈地並つし年取

空に鳥居く連歌も

簾おとし笑うく兒山野、炭俵

砧寺傳く尼達也庵

あは月も煮ゆに丁持うか

五落中も沙奴狗也

良

排

蕉

輪

排

良

排

蕉

綿躰乃時免く飛北僧

己の羽に多鳥蝶廿軍

日傘一さん子仇すくし

衣或捨く濯兒世北中

酒飲免の谷乃朽本も佛

於人う一鳥此乃松明

落中者北時日北道向小

水こもくくし手洗廿喜

良

排

輪

桃里

蕉

良

排

輪

月中如鐘撞比に多りたり里
一釜うすふり濃、莖長
乞食もきくし浮世乃おろり
洞也地藏に筆電ふ少明
葛也葉の根乃洞也深乃
冬に隣に流人柴芥
乃少もと旭也母也石其上
取分くまし只多ふふ福
輪 蕉 里 蕉 桃 輪 良 里

奥節も時の聲にけりきり
啗すに吞兒と投ふ丸菜
孫爰片^行狩り成に留^之雪
角とらふし巨燧也草
桃 雪 輪 良

直江津

冬月也六日も夜に似ん
落葉多しれ相也一葉
船寄に食焼く烟り立分
芭蕉 左栗 曾良

海士北山舟渡走あけふ碇

眼鷓

鳥つゝ向ふに山鳥又又せたり

北竹

秋也木頭に行ゝく仇絶

右霏

夕嵐度吹拂ふ 吾也ちり

右雪

鹽 雪り 蓬く 賤也 行水

執筆

おもひうけぬ 笠取付ふり一ツ

栗

きぬゝ 七場にて起毛也ん

良

数く 恨乃 石也 指片也し

義年

鏡にうたふ 志の笑ひ只

蕉

明放れ 影を 月も 色も 清く

栗

席中人し 十も 大也 小く さま

雪

碇より 志も 人 黒 衣

鷓

し 川と 二人 也 山 中 也 庵

栗

元也 後 其 終 之 也 星 也 也 不

年

蝶乃 羽 情 也 玉 蠟 燭 也 影

雪

其 雨 也 好 友 利 也 兒 也 泪 也 也

蕉

香の色く人く其

良

元禄二七月

同所右雪亭に其行

星今宵師上駒牽し留久也

右雪

色うきく兒初那其米

曾良

晒白踊に其く布橋

芭蕉

此四句目ヨリ初折其花迄紛失

種植し小枝に系し其名取記

也

雨北あり北島川長田多

良

養其引く其室東毛笑し兒其其止

蕉

一其く其物人馴し其子

雪

金山也儂に小砂其掘り其其

右

科其其く其地其陰其庵

也

夏其北百首に其其名取記其人し

蕉

人用交其く其之其可取

良

松柏寒く嵐北音にありし
雪

子成村さきさきれ構北床
蕉

修行者乃杖成滝〜凡死水
右

往昔乃月成山に同く死
也

朽皮起〜起北路乃秋寒く
蕉

志之乃〜露乃深北牛込屋
雪

塩濱北孤村北も起〜冬踏以
也

清水北流半冷〜死
右

可〜起地北孫に石のしこ
良

笑成落せり山北毛北陰
雪

能諧切尋〜死北冥冥にのり
蕉

乃木成取巻梅乃土産
良

元禄二年七月真行

右破海

葉隠仍成出け出し爪北暑哉
去來

野松に蟬〜北鳴る声
浪花

歩け荷持手振ゆ人せ咄し
芭蕉

駕籠やま清化也四返切多
之道

半時程夜せり生れ月北入
大艸

火也むちくやし焼く良寒
支考

軒下に苔這ふれ普請前
惟笑

尺舟たの尺越あゝ糸糸
野童

切くく畠又渡り丹波山
野明

北風く出れ冬も賣物
来

寄合の難乃三女出佐斗り
道

赤く焼く水燈北さ也
艸

ちくや志と風呂友提し戸打
考

赤地りくち地よく赤地葉
笑

砂川北浅く流る夕月夜
童

露志り白毛煙荷あつく
明

百はふ飛け本陰北店屋毛乃
道

茅種穠仁西地又晴らん
来

此寺に楞嚴讀し去年に春

禪場に云夏に六ヶ友不成

物乃内息子に馬を退せり

餅搗上し汁粉盛出

羽子板に川を一間に隣り程

僭上りし冬にけ尋ふ

茶小紋に羅に十徳にすん

手舟にさし秋の東に

艸

考

焚

道

明

道

来

艸

此夕多し日野に取山にゆり

賤、富乃鳴子にゆり

雨兼竹に陣乃房にれをゆり

子小出にれ市に小屋に

頃日乃をけ拙に静に

舞にし唄に直に族に

此房に里下り侍に泪に

奴にの笑にり拙に出に入

考

焚

道

明

童

考

艸

蕉

元乃香也皆く此奴宮うはし

日う家一日多々此さえは王

明 焚

元禄三年夏

砥並山

常に朝日さけ多し竹格子

浪化

礼者薄く〜其れ静さ

去来

養父入此土産似合に持し

まの時、其頃には其れぬ空

化

巨燧きり多きも此き若月

廣に如夜丸に 借ふ

来

旅人に錢取買馬、田舎道

蟹乃鳴起六月此す

化

中〜多細成一七以引く

小屋陣並〜小城北裏町

来

言も北七〜起り此道夏

梅咲初し立元時、り

化

年中成松也内より料理喰ひ

化

伊勢乃伏日也同友才也

来

上紐也本綿合羽に傘さしし

化

湯屋也半透のハツ下り之

化

谷月乃毛也平比にうき食

化

是歩も多丸利也子也切拍

芭蕉

玉味嚼乃信濃にうき秋也風

化

不足也幸也成也理に持すも

来々

右也幸也子也比に強也あり

化

急うけし也もあ役乃文

化

此為成也免しし通も難乃歟

化

青田も移りし夕立乃風

蕉

平目も石也友もれ也水端

化

給仕也さやし同夫も食喰も

来

月も兒夜乃盞梅也星し忍も

化

聖靈棚の余程も寂 屈

化

志乃小間坂踊に出るよし思ひせし
 其し浮うゝん去年此傍車
 系官やしつて盗毛救しり王
 之のやし叙々に向ふ横之
 茶うゝれ松と王飛乃嘆こちれ
 四五人通ふ僧共困るし
 薪了可乃子竹也杭骨古能
 以後仍毛春に去る兒世の中
 化 来 蕉 化 来 蕉 化 来

元禄三年二月

嵐竹亭

九月廿日余一羽に依せし浅草北末を
 嵐竹亭に訪ふし卒に十月廿日人凡真北足
 ら坂城懐し路北旧友奴催やし其跡改めく

茆^{カフ}様や水田北上乃秋共之
 著うゝれほに城惣局一
 衣川柿藤の馬乃家うゝるし
 芭蕉 嵐竹 酒堂

糞料烟不道也旁雨
 比艷
 古戰場月毛静に澄後王
 嵐蘭
 志しし又遠る亦か也笠
 堂
 さし沙水乃柱に亦とせし
 竹
 窓或は水の壁に入ふ缸
 蕉
 卷き束にうと休はるを流し
 艷
 水仙多きふ房山寄也傳子
 蘭

未略

口切に堀乃庭折る川に
 芭蕉
 竹の子乃く兒敷也初霜
 支梁
 山藿乃笠に纏ふつ兒帯も事
 嵐蘭
 秋也野中もかき届く也形
 利合
 旅人乃咄しに月也照る
 西堂
 大戸或あけに出る裸身
 公水
 鶯也玉子也教也産也尾也
 桐實
 あゝゝに橋或踏初も事
 巴竹

緑くさくさ田中耕堀くし

梁

奴れは家才者久く打豆汁

蕉

二箇、あま雨に毛紋子蝶々羽

合

霞うまの鳥空房乃椽

堂

きくくし浅落の鳥石の上

水

酒し乞食は多しあは月

蘭

行空は長門乃玉城秋立し

堂

空乃に栲りむ一標は錯

梁

西日入鳥飛の庵は弓半床

竹

首は二葉あはもくしあはく

實

都城の去年は行狩に思ひ代

合

兒に待ての鳥釋伽堂は暮

堂

笑神し志はし便も穢す人王

蕉

多し如泪の枇杷は落色

蘭

元早しし續す中も旅の宿

實

清けに位連の歌を伊豆社家所

竹

日盛りに鮎賣ふ声我妻人

堂

英々々々房々乃川口

梁

水清如也福乃亭下に有室一

合

生茅をまき居乃あて機

蘭

皮剥て物にし喰ふ膏は月

蕉

上毛吹風、白木河也亭

實

谷付は流しつけられ竹一袋

竹

太月持をくく二人あは

堂

物音も簾靜に落しこえ

蘭

盆にうせしゆぶ丸茶は教

梁

元盛り内中も路乃人通り

實

麦やし草もえは野の綿之

合

己の光集

芋種や元々盛り故賣歩は

芭蕉

巨燧用の風を吹かす

半錢

酒好也既毛踏ん其之れ奴 土芳

統ううと兒皮也衣 才 良品

宵ゆれ七ツ起る馬幸院に 残

ひさされれ却竹液一り 蕉

秋空に橋也戸こも馬挿入し 品

小僧癖に口うくする 芳

亦くやし世圓也砂原也後王 蕉

多賀也杉子もいれ其也兒 残

才梳乃男毛持ちし三ッ輪 組 芳

人にそり竹憂名口惜し 品

萱草也乃色毛聲も又意残し 残

秋立り蟬也位死にり 蕉

目之れ石屋根也し馬風也音 品

赤也れし青兒藍瓶也露 芳

釣鳥也元し也平際に笑初し 芳

御小町才あふも其髪り目 残

梅乃眼也六ツ柿核に四川白く
明也也催也也鐵羅苗也
確毛病人カリカ借奴 あり
只さやひし出馬也友造也
取くに紺屋也形切もりし
冬に至る椽にお思ひ増ん
化是也毛粧一も君もかりん
まよえ彼也切也あうり

残 芳 芳 品 蕉 残 品 芳

物多に婦は乃あふき経事あり
やし長も野、宮乃元
田氣也稿もあふ荒れ月沈し
風冷初馬牛也子乃 旅
空は越也裂織細毛也
死也人の人何れも
初風也吹起さしうひ 是也
筆取落せり進也也描出ん

残 蕉 芳 品 蕉 残 品 芳

白くくく一重た氣にきく向心
長岡に以る水太鼓あり
品 芳

元禄三年三月

笈日記

水鶏鳴く中人共之也佐屋泊
芭蕉
苗乃幸哉毎に投込也
露川
朝風に而合羽吹く
素賢
追ふ水肉一走り生物
蕉

月代に暖簾懸せる月秋
川
山形しりり採る水声
賢
耕他ちくも我々志る 神楽
蕉
豆腐あきあき 信濃海石
川
尻交り縁取号座も志起破り
賢
雨ち降ふは我書付に
蕉
地燦れもちたきくも蠅は足
川
藪切芥柳し如中に廣く
賢

全別の一世女時此元さり
 行に本仇女照波影
 其北野、やに廣規白川系
 三徳什し馬北流也
 其化に胃女毛切起之月一
 娘女先に娘系官
 右所に百度毛替多秋也
 魚毛白小棚也松草
 考 次 川 丈 考 次 丈 考 次 丈

大禄七年五月

山店餞別兩吟

新麦の熊す免奴首途之馬
 山店
 まとお蚊屋北空遙之
 芭蕉
 馬時北了し佛免牧也野に
 四五千石乃松也立山
 店
 方々一醫曹考知事局善背
 踊也他法誰毛之凡
 蕉

盆子北比の寺々其善清しく
芭蕉

ほくろふ若に菊奴や馬

蓬生に意取止され男如星
店

隈乃明出れり山見南宗

丹波の便もあらし鳴く馬
蕉

節々々の才女を利上三女

室に如し土器賣奴返山寺
蕉

只系中に月夜し涙りれ

店

柳下北比の寺々其善清しく
蕉

志也々の歩んし筆の精も成り

奥院あつて飛奴さし眼死
蕉

今夕の山を川を寺々其善清しく

其也日に産屋北伽北流るりと
店

常しく也湯漬喰らふ

南友く皆抜去りて並る
蕉

目口もあつて丸路あり

店

幸いふふ標林に日あつた
 佛が本城取包も多し
 古流くし白曳出せばけり
 持く流したるも生る竹椽
 羽之至れ赤を馬道に物思ひ
 羞ひ時々初せりす
 鶏鳴と盗作りき月
 島川荒し山暮乃元
 蕉店 蕉店 蕉店 蕉店 蕉店

日考一丹柄之れ秋也此
 之化くもむすも夏
 夕風に蒲生れ草も破れ此
 物やも也とさすも天目
 花や中ふ内野山坂も付
 夏也あつて馬谷乃元
 蕉店 蕉店

小文庫

惟子の日、にすぎ満一鴈也声
 史那

籾一升上綿七五九賃
 蓼多穂上將水油七碟切九分し
 末市農人七之の月夕月
 木刀七音切了れ居合七同
 二階七し七音切七裏板
 寒七少七菜七下切吹半し
 石丁七多九の多孤幸七撞
 半細子七雑箸太七う七る屑
 水 那 水 那 水 那 水 那

時以返七毛七履反七小鏗
 乳寒七兒隣七七新茶吞合し
 秋入時乃七筋糸七し七れ
 塩漢上降孺七七れ宵七雨
 無任七七あり七幸七七七
 持七七七七新髪利毛緒七七
 土焼七家七七鳴七七七物
 死七七七七七青七七表七七
 水 那 水 那 水 那 水 那

小性乃口也遠之起三月
竹橋也内より宿毛岸穴
馬也輩よりく役毛綱一
夕毛に洗濯但身衣投込人
やらぬ毛悪し一湯、也吊以
櫓借に才もれやし折節夷講
叶暖、さ翌の時雨、
安也山也文し床も居垣主、

水 那 翁 水 那 翁 水 那 翁 水 那

百里也也修、私也きぬ
枕割、也土佐村本也片一思以
とらぬ毛、拘りぬ申、の生壁
やらぬ程、込張にち居月也名
盲又也待し、鴨、乃曲突
摺体、に括し、あ、む、唐幸子
陸、子、ま、子、や、柳、多、乃、舟
小南、や、名、降、一、や、し、也、渡、里、也

水 那 翁 水 那 翁 水 那 翁 水 那

二葉三叶の秋ふあつて
考しき野暮り北風盛り
百姓やすむ苗代乃隙
水 那

白塞集

子斗人もさしきり
野の仕付るれ麦北荒土
油賣人賣人の小粒北吟味し
汁北考人さし秋北風を
水 許六 洒堂 瓜水

為北月真へ入程さる
先工夫する致北釣也
女張北傍輩一前に傍れし
焼焦しきり少集も之清
粽包も笹の葉く北以後至
轆酩^ガ也乃衣れを良北合
半分の澄り女人も亦交至
私遊しきりし蛸北喰以飽
水 蘭 堂 六 翁 水 執筆 螢蘭

青團のあゝ女馬神北宮移

少きし枯北風持て死し

八月の旅面白兒小坂 綿

やけ山越乃や北赤まけ

寺起り昌も元乃十陰上し

片も長田に鶏卵割る

其物〜隠者世富きあり也

市摩之惡地酒に碎す

扇

六

堂

蘭

水

扇

六

堂

きりりし鱧一本に年一巻

長打其上

幾軒乃新急流〜志兒甲地待

山洋〜きり山取出声

兒連の鮎乃白獲〜

尻目に通し翠及坐席北房

〜あまもきり〜

雲英

蘭

水

扇

六

堂

蘭

水

扇

中州の昆沙堂の 小方丈 六

舌の起る 良寒 堂

一命も青児葉乃る 芒示 蘭

公徐踏下 第お根路 水

宗長は憂れ 白毛 筆乃 跡 翁

茶磨多し 百姓は 六

元は春まの 一し廻る 神樂米 堂

七十は賀乃 若菜 莖立 蘭

大禄五年十月 許六七十賀祝會

芭蕉庵野坡両吟

寒く菊也 小糖は 白は端 翁

提し賣行 半と大根 野坡

夏冬の牙 橋或魚 柳し

乃に白也 月は黄昏 翁

空も秋乃 日癖は 翁

此一谷の 乃乃内年 頁 坡

七十に多々印帳不即杖持

三尺通一裏此一之

涼きり堅田此出キ事よく之し

蛭中多牛乃池休むる

馬深に幸此男此人いん

具此に房多旅此事也

押造多師走此り少我喰之也

此に此我分し此いん主節

翁 坡 翁 坡 翁 坡 翁 坡

田中に堀一段石乃年経し

芝に道はくく月履多れ

元此時此又の目出交多く似ず

俵し多り其此花本

廣度に青此結深引多し

這更多子此様に合頭

裏合根藪此之為藪乃岩

蛤乃跡此多毛多掃

翁 坡 翁 坡 翁 坡 翁 坡

年寄し才の多様北遊知
 流し酒吞毛多物也前
 やりし樓に風也尚も音
 稲盗人北強我解也馬
 月忍れぬ親に不足は出まへん
 古も仍し落し何を行中
 役に利ふ天窓斗の孫務はし
 仕付し腐れ響方北也
 坡 坡 坡 坡 坡 坡

四坂桂の向山を江村苗北出東
 坡

元禄六年十一月

炭俵集撰ノ時ニテ雨無隙不満ニテ韻終

鳥北道集

秋多知人の世奇事也
 志中落人史も孫子世落
 月孫も書振也方影也
 惟然 木節 雨

りた何れきき〜〜
行燈北き〜白丸 額片丸
五〜た四出也〜川〜金
羊部、四面上雨敷見馬き〜に
竹、根成行〜水き〜
き〜〜と京〜北枇杷河以連
嫁〜娘にき〜〜こく
お〜の皆寒〜〜巨燧也
節 考 節 考 節 考 節 考

庭き〜鳥物き〜んあ〜
髪張あ〜し番に出入り月夜
木に十斗一柿成生〜あむ
満仙に中稲仕年〜しきん登り
桶毛鬘毛新し〜死あが
投打成を川〜し楠成歩行
首に物〜〜掃除日
元嘆し茶桶を〜扇裏北山
節 考 節 考 節 考 節 考

誰の藏せし白土舟も元は春
昌房

海のくさしき宗も得松
芭蕉

路通稻穂並七巻初裏

陽春のや海牛も元は盛なり
游力

東風吹きあふ菊水の簾
盤子

同巻名残裏に

内裏の月をとりておぼけ元は若
珍碩

鸞北出入はきやうあはる
野經

白雪亭一桃を白し七巻初裏

茶をうりて春しりも旅立
支考

散る花は岸に化粧も水もけ
以之

二月は雛もあつてもあひ
桃先

同名残七裏

嗚るに椰子もさくらも柳も
扇車

むらもあはる人し抱馬若松
涸水

嵐雪西吟七初裏に

孫以高人也姨控北月
散馬亦以垣根取之氣高
芭蕉

支考兩吟也柳裏に

清依江常陸之助も花も
白以花も一も取也飛入
芭蕉

名残北裏に

月神也飛も盛に咲り梅
毛も居に二も一も伸も青梅
支考

路通水仙也卷柳裏

乱れ後乃之也年号
栲蓐や多下にも花も花も
定也食食也年号也風
芭蕉
泉川
路通

名残也裏に

元也さうり静り多舞也紀多也
字も花も中も立乃声
芭蕉
李峴

真向翁也柳裏に

赤の草の多岐君の草也
芭蕉
元乃素直の清に信やりに
路通

名残裏に

折れ葎の草に初も乃
前川
入るし草の吉野、元也真
芭蕉

何の草に也の草に白
前川

秋北草の崩しとる草の卷初裏十日目

七種追りて流川一階あり
游刀

又也馬の荷、蘇乃苗もるやうに
酒堂

芥焼也卷名残裏

折れ元の子仇也の感
涼葉

美和松の天神も
濁子

松草也きく女も葉也卷初裏

柳元也垣に古竹、強以液
惟葵

道をもるやうな月も穠さ
文代

花勸進終

